

令和元年度 こどものみらい保育園 自己評価分析と今後の課題

1. 対象者

保育職員 6 名（内訳：正規職員 5 名、パート職員 1 名）

2. 方法

「教育・保育の計画性」「保育の在り方、3歳未満児への対応」「保育者としての資質や能力・良識・適性」「保護者への対応・守秘義務」「地域の自然や社会との関わり」「保育者の専門性」の6つの大きな評価項目より、当法人の理念や方針を考慮して計88個の評価項目を作成した。（別紙参照）

3. 評価・分析方法

「1 よくできている」「2 まあまあできている」「3 あまりできていない」「4 まったくできていない」の4段階で回答を求めた。また、集計した回答について基本統計処理を行い、その結果をもとに園内研修にて話し合い、今後の課題について話し合った。
※対象者が少ないため、分析結果はあくまで傾向とする。

4. 結果

I. 教育・保育の計画性（1：24％， 2：64％， 3：11％， 4：0％）

88％の職員が、「よくできている」又は「まあまあできている」と評価した。

【課題】

- ①互いの保育を見せ合い、高めていく努力が不足していた。今後は、お互いの保育を見せ合い、検討した上で評価・反省をし、保育の質向上に努めていく。

II. 保育の在り方、3歳未満児への対応（1：47％， 2：51％， 3：2％， 4：0％）

98％の職員が、「よくできている」又は「まあまあできている」と評価した。

【課題】

- ①保育者全体で子どもの好奇心や発達を促す意識やねらいが共有できているか、事前に確認をした上で、次週の保育計画に繋げていく。
- ②場面に応じた子ども達一人ひとりへの関わり方について、職員同士の経験や事例などを共有しながら話し合い、子どもにとってより良い関わりを検討していく。

III. 保育者としての資質や能力・良識・適性（1：51％， 2：48％， 3：1％， 4：0％）

99％の職員が、「よくできている」又は「まあまあできている」と評価した。

【課題】

- ①キャリアアップ研修等の外部研修に参加し、専門的な保育の知識を深め、実践の中で高めていく。
- ②マスクをしながら保育を行っているため、子どもや保護者、職員間で伝える側の思いや

意図が伝わりづらいところがある。現在も実行しているが、声のトーンを意識的に上げたりしながらコミュニケーションを取りやすい雰囲気づくりを徹底していく。

IV. 保護者への対応・守秘義務（1：62%，2：34%，3：4%，4：0%）

96%の職員が、「よくできている」又は「まあまあできている」と評価した。

【課題】

- ①家庭の状況などの情報が職員間で共有しきれていないことがあった。CHS(保育記録システム)への記入では不十分なのか、再度検討する。また、保護者との連絡帳や職員が記録したノートを振り返り、全体で共有する時間を確保していく。
- ②子ども達一人ひとりが抱える課題について、正しい日本語を用いて丁寧に伝えていく。また、子どもが抱える課題を保護者に伝える際は、良い面も伝えつつ、伝えていく。

V. 地域の自然や社会との関わり（1：44%，2：42%，3：14%，4：0%）

86%の職員が、「よくできている」又は「まあまあできている」と評価した。

【課題】

- ①実習生を受け入れる際は、オリエンテーションで園の理念や保育方針を伝えつつ実習生の目標を確認して上で、「同じ保育の道を学ぶ人」として、丁寧かつ適切な指導ができるようにしていく。そのために、自分たち自身の日々の保育を高めていく努力を継続する。
- ②生物や野菜を育てる機会を保育の中で取り入れられていなかった。プランターを用意して野菜を育てたり、植物を植えてお水をあげてお世話をしたりすることを子どもが経験できるようにしていく。

VI. 保育者の専門性に関する研修・研究への意欲・態度（1：51%，2：47%，3：2%，4：0%）

98%の職員が、「よくできている」又は「まあまあできている」と評価した。

【課題】

- ①保育者一人ひとりが明確な役割を持てるようにする。自分が組織の中で何を活かせるのかを考えながら、その専門性を高めていく。一人ひとりが支え合うことでより良い保育ができるということを意識しながら、協力していく。
- ②園内外の研修に積極的に参加し、専門的な知識を深めて日々の保育の中で実践していく。